

S P A C 演劇アカデミー 4期生

冬への約束

2024年12月

荒井 日菜子

夕方。

天気は、どんよりとした曇り空で、灰が降っている。
とある都市のバス停。

バス停は上屋が備わっており、直立したバス停標識と煤けたベンチがある。
アキラ、灰が被らないようにフードを被り、バス停標識と時間を見比べ、落ち着かない様子でいる。

ユキ、傘を差しながら、バス停に走ってくる。

ユキ アキラ、遅くなってごめんね。

アキラ 大丈夫だよ。

ユキ、傘についた灰を振り払う。

ユキ 家を出たらいきなり灰が降り始めて、もう大変だった。バス、来た？

アキラ まだ来てない。

ユキ そっか、ごめんね。寒かったでしょ？

アキラ 全然待っていないから。大丈夫。ほら……、肩に灰がついている。

ユキ 嘘っ。えー、どこ？

アキラ ほら、ここ。白くなっている。

ユキ、肩の灰を振り落とす。

ユキ 落ちた？

アキラ 落ちた。

ユキ 良かったー、汚れなくて。

アキラ ……ユキこそ、大丈夫だった？

ユキ 何が？

アキラ ほら、もう日が暮れるから……。

ユキ ああ。ママには、「大学の就活セミナーがあるから」って言って、家を出てきたから大丈夫。

アキラ それ、本当に大丈夫？

ユキ 「大学」って言うとけば何とかなるよ。……あ。でも、もしかしたら説明会中に電話かかってくるかも。そしたら、アキラ、代わりに聞いてくれる？

アキラ わかった。

ユキ もうー、「危ないから灰が降ったら外出禁止ね」って、無理すぎるよー。人体に影響がないってニュースでも言っているのに。

アキラ ここ一か月、毎日降っているよね？

ユキ そうなんだよねー。家出る度に、「今日も行くの？ 家にいた方がいいんじゃない？」って聞いてくるの。

アキラ 心配しているんじゃない？

ユキ 心配しすぎも毒だよー。世の中が、灰が降るのがスタンダードなんだから、そろそろアップデートしてほしい。

アキラ そんなだけ、心配してくれるのもうらやましいけどね。

ユキ えー、絶対うざったくなるよ。

アキラ ああ。確かに毎回言われると、めんどくさいか。

ユキ そうだよ。アキラは、親から何も言われないの？

アキラ うち？ うちには別に……。大学入学してから連絡取っていないし。

ユキ 去年も？

アキラ 去年？

ユキ ほら、灰がちょうど降り始めたのって、去年の今頃じゃない？ みんな実家帰りして置いて。その時も連絡を取っていないの？

アキラ 取っていないね。

ユキ 一度も？

アキラ 一度も。帰らなかったな。

ユキ えー、どうやって生活してたのー。お店とかもやってなかったでしょ？

アキラ どうって……。コンビニがかるうじてやっていたから、コンビニで？

ユキ うわー、強すぎるよ。ユキ、絶対生きていけない。

アキラ そうするしかなかったし……。火事場の馬鹿力ってやつ？

ユキ 適応力高すぎ……。あ、バス来た。

バス、停車する。

ユキ 寒いから、早く乗ろうよ。

アキラ あ、これ違うバスだ。

ユキ 違うの？

アキラ これ、一本前のバス。乗るの、市立病院行き。

バス、発車する。

ユキ 遅延しているね。

アキラ バス、遅れやすいから。

ユキ 積灰量のせいかも。行く途中、どばって降ったから。
アキラ 交通規制、かかったのかな。

ユキ 最近、多いよね。連日降り続けているからか。

アキラ 気温も例年より、ぐっと下がっているらしいよ。大気中の灰が日光をさえぎって、うんたらかんたらってテレビで特集を組んでいた。

ユキ 『地球に「永遠の冬」がやってくる?!』ってやつ？

アキラ それぞれ。氷河期の再来かとか言ってた。

ユキ ……ああ。だから、「冬眠」なのか。

アキラ ん？

ユキ 今日の説明会。「冬眠」の説明会って、何でだろうって思っていたけど、そういうことか。

アキラ 今、気が付いた？ 詳細、書いてなかったっけ？

ユキ 全然、読んでない。説明会でどうせ説明されるから、いいかなって。

アキラ ユキ、絶対いつか騙されるよ。

ユキ ええ。そんな風に見える？

アキラ 見える。

アキラ、鞆から封筒を取り出し、書類をユキに渡す。

アキラ 今の内に読んどきな。

ユキ ええ……。

ユキ、書類に目を通す。

ユキ えっと……「拝啓 神帰月の候 皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。本説明会にご応募いただき」……

アキラ そこから一段落は挨拶文だから飛ばしているよ。

ユキ え、二十行くらいあるけど……。

アキラ 全部、来てくれてありがとう、来た君は優秀だって内容だから……、ここ。ここから読むといいよ。

ユキ えー、「本説明会は、弊社と医療チームと協力して、研究・開発された「冬眠」についての説明会となっております。皆様、「冬眠」と聞かれて何を思い浮かべるでしょうか。」……うーん、クマの巣ごもり？ ……「クマの巣ごもりと答えるでしょう。」……え、すごい、当たっているよ。

アキラ その後ろに「その他にも、リスやハムスターなどの小動物、両生類、爬虫類など」って書いてあるから。冬眠って言ったたら動物が冬に眠って過ごすことって、誰でも当てはまるように書いてあるんだよ。

ユキ そっか……「その通りです。」

アキラ ……。

ユキ ……「我々は、それを人間でも可能にするために、かねてより日夜研究してきました。」……「昨年、灰が降り始めました。灰は、異常気象として、日本の各地や地球で降り始めて、我々の生活に大きな打撃を与えました。気候、農作物、経済、等々。度重なる降灰の影響で、寒冷化が進み、とうとう氷河期が起るかもしれない。そんな噂話って思うかもしれませんが、それは今まさに地球で起きていることなのです。」……？

アキラ 地球規模で危機が起こっていますよってこと。で、ここから先が、我々の技術を使えば、そんな地球の危機に人間が脱することが出来るかもしれないって、技術力を熱く語っている部分。で、次が裏面で……、ここからかな

ユキ 「弊社の「冬眠」することで、寒冷な気温から人間が耐えうることでできる温暖な気候に戻るまで、コールドスリープさせ、人類の絶滅を防ごうという訳です。」……「そのための方法や実際の様子、詳細な費用などは、本説明会で詳しく説明されます。ぜひ、この機会をお見逃しなく」……終わり？

アキラ 終わり。

ユキ ……読む必要、あった？

アキラ ……一応、大事になって。

ユキ これなら絶対、読む必要ないよー。読んでも何もわからないよー。
アキラ でも説明会参加したら多額の参加費をいただきますって書いてなかったから、今のところ大丈夫かって。

ユキ 怪しすぎる匂いはプンプンするけどね。

アキラ まあ、行くだけ行ってみるのも楽しいかなって。先輩の紹介だし。

ユキ まあ、こんな機会なかなかないし。

アキラ ユキから誘われたから、詳しいこと知っていると買ったけど。

ユキ 先輩に説明されたことしか知らないよ。

アキラ あの、体験談？

ユキ そう。一人が入る四角いカプセルみたいな箱があって、その中がふわふわになっていて、そこに入って蓋を閉められると、うたた寝している感じみたいに眠れて。で、気づいたら一週間経っていたって。

アキラ 本当なのかな……。

ユキ 本当だったら、最高だよね。何も考えず、ふわふわした心地で寝ていけば、時間が経っている。起きたら、知っている人たちなんて全くいなくて、新しい世界で自由に冒険して。

アキラ 壮大だね。

ユキ 何にも縛られずに自由なのかな。

アキラ 縛るものはないんじゃない？

ユキ いいなあ。

アキラ ……まあ、今を生きなくていいのはいいのかな。

突然、ユキの携帯の着信音が鳴る。

ユキ ママだ。(電話に出る) ……うん。今、バス停。…バス止まっているのか。わかった。今から帰るね。……うん、大丈夫。心配しないで。すぐ帰るから。家で待っていて。(電話を切る) ……バス、やっぱり止まっていた。ごめんね、帰らないと。
アキラ そっか。今日はもう無理そうだね。
ユキ うん。また、別日になれば。
アキラ じゃあね。

アキラ、バス停から出る。

ユキ、アキラの後ろ姿に灰をぶつける。

アキラ うわあ。

ユキ ごめん、ごめん。

アキラ もう、鞆に入った。

ユキ ねえー。

アキラ ん？

ユキ 絶対に一緒に「冬眠」しようね。

アキラ うん、わかった。アキラ、ユキに灰を投げる。ユキも、それにし返して投げる。

幕

梅村悠乃

嫌いだった、ずっと。

あの音が、

あの、柔い雪の上を踏みしめる音が

外で響くみんなの楽しそうな声が

街中で鳴り響くベルやクリスマスソングの音が

憎らしかった、ずっと。

あの色が、

あの、なにかもを雪が真っ白に染め上げるのが

空を覆い尽くそうとする厚くぼわっとした雲の色が

赤や緑、黄色やピンク、色とりどりに食卓を彩るのが

羨ましかった、ずっと。

あの風景が、

あの、みんなが外で楽しそうに走り回る様子が

みんなで一緒にご飯を食べ、楽しそうに話しているのが

みんなが、思い思いに日々を過ごしているときのその笑顔が

まるで、世界の中心は自分だと言わんばかりで

みんなを楽しませているのはこの私だと言わんばかりで

負けてられるか。

俺たちにだってこれくらいできるんだよ。

すました態度ばっかあって、気取ってんなよ。

だからこれは、俺達からお前への挑戦状だ。

俺たちは、お前に負けない。

河合 来実

秋

夕方―夜

高校の自転車置き場でスマホをいじっている早紀。
部活帰りの、まなみが通りかかる。

まなみ 先輩

早紀 ああ。帰り？

まなみ そうです。先輩も？

早紀 帰りなだけどさ。帰る気力が出てこなくてさ

まなみ 課外ですか？

早紀 そう。あ、それだわ。課外のせいで疲れて帰る気力が出ないんだよ。だから、

ここでパワー貯めてたの

まなみ そうして、何分くらい貯めてたんですか？

早紀 課外終わったのが六時だから、40分くらい？

まなみ 寒いでしょ

早紀 寒い。そろそろ手袋だねえ

まなみ そしたらスマホできないですよ

早紀 まあねえ。でも最近はスマホできる手袋もあるしねえ

まなみ あったかいもの飲みます？

早紀 あったかいもの？

まなみ ココアとか。持つてるだけであつたまるでしょ。欲しいなら買いますよ。差し入
れに

早紀 差し入れて何の差し入れよ

まなみ 受験生でしょ、先輩

早紀 いいよ。部活で頑張ってるのはそっちでしょ

まなみ 大会も終わったんで別にです

早紀 でもすぐ次があるじゃん

まなみ そうなんですけどね。燃え尽きたというか。あ、じゃあ、先輩。今度部活来ま
す？

早紀 もう引退したよ

まなみ でも、どうせ勉強してないんでしょ？

早紀 まあ、してないけどね

まなみ じゃあいいじゃん

早紀 勉強ね、しなきゃいけないらしいよ。本当はまなみ 知ってますよ

早紀 だからね、これからは勉強するらしい、私まなみ ふうん。先輩部活来ればいいのに

早紀 なんて？

まなみ え？ ああ。そう、私たちって誰も引つ張るタイプじゃないから、進まないんですよ。自分で言うのもなんですが、全員後輩が向いてるんで

早紀 まなみが引つ張ってればいいじゃん

まなみ 私？ 無理無理

早紀 案外いいと思うよ、母親ポジションというかさ

まなみ 嫌ですよ。先輩たちについていくのが天職なんです。先輩たちはみんなリーダーシップがあつて良かったですよ

早紀 船頭多くして船山に登るだよ

まなみ そんなことないです。全員が各方向へおんなじ力でグイーって引つ張ってたんで、動いてなかったです。船

早紀 なんだったんだよ、私たちの努力は。物理ではね、物が動かなかつたら仕事をしただとは言えないんだって

まなみ でも船に乗ってる身としては安心感やばかったですよ

早紀 船がさ、なくなつたら。私たち四方八方に散つていったよ

まなみ 急に悲観的ですね

早紀 長田は推薦もらつて高みの見物だし、近藤は京大合格圏内だし、岩田は声優やりたいつて言つて親とバチバチ

まなみ すごい

早紀 ね

まなみ 先輩は？

早紀 ないよ、特に

まなみ でしょうね

早紀 でもさ、本当に卒業するのかね？

まなみ 誰が？

早紀 私が

まなみ 知らないですよ、するでしょ

早紀 本当に？

まなみ 留年、ですか？ え。先輩そこまでなんですか？

早紀 いや、違うけど。なんか、記憶のある限り、高校生であることがずっと続いてきたから、これからもずっと続く気がするんだよね

まなみ 物心ついたの16歳以降ですか？

早紀 そうかもしれない。まだ物心ついてないかも

まなみ じゃあ、留年しといた方がいいですね、留年しましょう

早紀 やだよ、私は留年とかじゃなくて、自然と高校生で居続けるんだよ
まなみ でも部活も引退する気がしないって言って、普通に引退してるんじゃないです
か。留年することに決めて、部活やりましょう

早紀 どう、まなみは。物心ついてるの？

まなみ え？ うーん、はい。ついてますね

早紀 私、物心つかないまま高校生活終わりそう

まなみ そうでしょ

早紀 部活も、本当に引退したのかね？ 私は

まなみ 未練ですか？ 結果に納得いってない感じではないでしょ

早紀 思い出そうとしても、VRっぽいんだよね、全部

まなみ ゲームみたいなの？

早紀 というか、見てるだけ。私は実は自分の部屋にいて、高校生活をGoogleで見
るの

まなみ 今更中二病ですか？

早紀 失礼だな

まなみ まあ、それはインターネットネイティブ世代の弊害ですよ。情報が浅く広くて、
実感がない

早紀 達観だ

まなみ 先輩見れば分かります

早紀 自分だってインターネット世代なのに

まなみ というか先輩は、ぬるま湯につきりすぎ

早紀 自覚ないけど

まなみ ほら、そういうところですよ。なんとなく生きてたら高校生活送れちゃって、雰
囲気でやってみたら部活も上手くいっちゃって、頑張らなくても自分のことを好
きになってくれる人がいて、ずっとそうやってここまで来たんですよ。だがしか
し！ これからはそうはいかないです。進学するにも就職するにも根性が必要
で、見知らぬ土地で、初めての人から見たらタラタラしてるようにしか見えない
先輩は、人生初の危機に瀕することになるんです

早紀 そうかもね

まなみ そうです

早紀 危機感持っても変わるもんじゃない

まなみ そうです。だからこそ行動です

早紀 行動したくない

まなみ かかりましたね。そもそも先輩、行動したくないと言ってますが、課外終わって
普通は帰りますよね、何も考えずに。それをこのど寒い駐輪場に留まる、それこ
そが行動なんです。世の中の摂理に対する反抗なんです。なんでここにいたんで
すか？ 反抗ですよね？

早紀 なんてって、帰るパワーを貯めてて

まなみ もしかして、私の部活が終わるの待ってたんですか？

早紀 いや、そうではない

まなみ 知ってました

早紀 課外が終わって、夕方で。夕方でも意外と星が見えるんだけど、ずっと見てると、星の位置は変わらないのに、だんだん空の色だけが変わって行って、黄色の中にあった星が、水色の中、青の中、黒の中。星は動かないし色も変わらないのに、全然違って見えるんだよ。でも。気づいたら自転車置き場の屋根のすぐ近くにあった星が、昇降口の屋根の方に近くなってる、あ。やっぱり変わらないままじゃなかったんだねってがっかりするような安心するような

まなみ なるほど、それで？

早紀 それで、あれ、月ってないんだっけ？って思って調べてたら、まなみが来た

まなみ あ、すいません

早紀 いや、いいけど

まなみ もうちょっと聞かせてくださいよ

早紀 別がないよ

まなみ えー

早紀 えーわかんないよ

まなみ せっかく先輩が考えてること、頭の中身 聞き出せると思ったのに

早紀 頭の中身ねえ。このままここにるのが自然なことに思える。課外終わって帰る方が、どうしてだろうって思う

まなみ ……先輩。今日部室に泊まりませんか？

早紀 え？

まなみ あ、えっと、部室はストーブもあるし、ソファもコンセントもあって快適だと思うんです。夜は電気消さないんだけど、

早紀 うん。いいよ

まなみ え？

早紀 え？

まなみ いいんですか？

早紀 いいよ

まなみ いいんだ。え?!

早紀 いいよ

まなみ 学校に泊まって、怒られる。とか言いませんか？

早紀 そんなこと言わないよ

まなみ じゃあ、先生がみんな帰るまで息をひそめて、過去の部員が置いていったノートとか読みましょう

早紀 私たちも書いてみようか

まなみ はい！ それで、朝まで語り合しましょう。ゆっくり。時間はたくさんあるから
早紀 時間はたくさんあるね

まなみ それで、朝は何事もなかったかのように、お互い自分の教室に通学するんです、部室から。清々しい気持ちで

早紀 そうだね

まなみ それで、私たちはすっかり満足して。先輩は、きっとその日から勉強を頑張つて。私は、

早紀 まなみは、新体制として部活のみんなを引っ張っていく

まなみ そっか。はい。うん、そうですね

早紀 そうしようか

まなみ 先輩。やっぱり私……

早紀 なんかき、泊まるの雨の日の方が良くない？雨粒に紛れて、雨音に守られて

まなみ 雨の日の方が、良い

早紀 じゃあ、雨の日だね

まなみ はい。でも、絶対ですよ？

早紀 うん、じゃあ今日は帰ろうか

早紀、自転車の鍵を回し、スタンドを蹴る。

まなみ え？ もう帰るんですか？

早紀 今日のところはね

まなみ パワーは？ あ、でも待って！ 冬って雨降らなくないですか？ しかも降っても雪になるかもしれないし！

早紀、よろよろと迂回しながら自転車を走らせる。

早紀 雨が降ったらね、雨の音の中で真つ暗な部室で朝まで語り合おう

まなみ ええ、じゃあ今日はせめて一緒に途中まで帰りましょうよ！

早紀 まなみの駐輪場、学校の反対側でしょー

早紀が角を曲がろうとする。

まなみ もう、絶対ですよー！

早紀の姿が見えなくなる。

そうま

私の熱い心をもゆっくりと突き刺していくかのように、突然に現れし君。待ち遠しかった日々とは裏腹に、君に侵食され、次第に避けたがる日々。

そんな私を関係なしに、君は冷ややかに私を包み込む。まるで逃がしはしないとでもいうかのように。

そんな日々を過ごしていたら、ふとまた君は去っていく。まるで最初からいなかったかのように。

そうして私はまた君を恋しがらうだろう。なんてわがままで自己中心的なだろう。

こうしてまた私は君への熱い想いを持ち、恋焦がれるのだろう。

私は真っ当に君を愛することができない。

そう、だから私は、約束を結ぶことはできない

あん 寒いのと暑いのがあったらどっちがいい？

らん 私は絶対冬がいい。だって夏は暑くて何もやる気起きなくない？

あん 確かにね、でも冬の方が寒くて動けないでしょ？

らん そう？

あん だって寒くて朝布団から出られなくて、バイトに寝坊したの昨日で三回目だよ？

らん 次は無いね

あん だから免疫つけようと思って

らん 免疫？ 冬の？

あん インフルエンザの予防摂取あるでしょ？ あれは、あらかじめ菌を体に覚えさせ

て、その菌が身体に入ってきた時に攻撃させるっていう仕組みなんだよ多分

らん へー。でも冬には予防摂取ないよ

あん まあね。でも冬の免疫を作る方法があるんです！

らん なに！

あん 簡単だよ。それは！ 家に居る時！ ずっと半袖半ズボンで過ごす！ これだ

らん け。ね？ 簡単でしょ

あん 何それ。バカみたいだけど

らん これはもう、いかに耐えるかの問題だけだから。自分の意志の強さが問われる。

あん 寒さの免疫つけて損は無いよ

らん しょうがない、じゃあどっちが早く免疫つくか勝負してあげよう

あん 半袖のヒートテックとかだめだからね。ちゃんと普通の半袖半ズボン。半ズボンは

体育ズボン規定で。暖房NG。こたつNG。ひざ掛けくらいなら良いよ。でも

ひざ掛けにくるまったら意味無いからね。

らん 楽勝

十二月中旬

あん どうですか？ 調子は

らん まあまだ楽勝よ。案外十二月って寒くないかも。みんな大袈裟なんだよ、マフラ

あん ーして手袋してさ。冬眠しそうな勢いじゃない？

らん 凍死するほどまでの寒さじゃないのね

らん ほんとそうだよ。動けば暖かくなるんだから。寒くなったら、運動！を続けてた

らん ら痩せて来た気がするもん

あん 一石二鳥じゃん！

らん けどその分、夏の倍の倍のご飯食べてるから意味無いけどね笑

あん 寒いからいくらご飯食べたって太らないんだよ冬は！
らん なるほど！ 最高！

十二月下旬

らん 大分レベル上がってきたよ。
あん 冬もまだ本調子じゃないから油断出来ない
らん 薄着でコンビニ行ったんだけど、全然寒さ感じなかった！ これまじで免疫つき
始めてるよ！やばい、凄すぎる
あん でしょ！ だから言ったじゃん。私も半袖でスーパー行ったけどめっちゃ余裕だった。今多分

らん 63%くらいの免疫ついてると思う。
あん いいなあ、私今多分55%行くか行かないかぐらいだわ
らん しかもそのスーパーで免疫仲間見つけた
らん 仲間？
あん 半袖半ズボンの小学生
らん 年中半袖半ズボンでいる小学生を師匠のように思えてくるよね
あん あの子達もきつと本能で冬の免疫つけなくちゃ！ってなってるんだと思う
らん 尊敬しかないね

一月

らん 十二月とは比べ物にならないね。冬も本気出してきてる
あん ここが踏ん張り所だから。いかに寒さを紛らわすか、だからね
らん まじで頑張る。冬の免疫つけたら、厚着しなくて済むし得しかない
あん うちらならやれるよ絶対。冬の免疫つけて薄着で海なんか行っちゃおうか！

一月中旬

あん うん、顔見ればわかる
らん 私も、分かる
あん こたつの誘惑に耐えられなかった！
らん 寝てて気付いたら無意識に暖房つけてました
あん あー惜しかったあと少しだったのに
らん でもこの頑張りは凄いよ？ 100%まではいかないけど、77%の免疫はついてるよ！
あん そうだよ、うちの頑張りは無駄じゃない！
らん 来年の冬こそは絶対100%の、免疫付けようね！

仲野 晴香

結衣
未優

未優
もしもし。

結衣
ねえ、今年のクリスマス、予定ある？

未優
相変わらず急だね。今のところ、ないけど。そっちは？

結衣
ないよ、でもあるの。

未優
どういう意味？

結衣
私ね、今年はサンタを捕まえようと思ってるの、クリスマスに。

未優
結衣の家まだサンタ来てるの？

結衣
もちろん。私の家は十五歳までサンタが来るって決まってるから。未優はもう来ないのか、可哀想に。

未優
まあ、可哀想っていうか、親からプレゼントはもらえるし。

結衣
サンタから貰うのはやっぱり特別でしょ。無料だよ、何もらっても。

未優
まあ、一応そういうことなのかな。

……サンタ、本当に結衣の家に来てる？深くは言わないけど。

結衣
もちろん。去年はカメラ仕掛けて、写真撮ったんだよ、ほら、今送るから。

(空白)

ね？ 動画まであるんだから。

未優
なにこれ、本物のサンタじゃん。しかも外国人。どうやって家に入ってきてるの

これ。不法侵入にならないの？

結衣
クリスマス之夜だけは鍵開けて寝るから。

未優
それ、やばくない？

結衣
知らない。ママがそれでいいよーって言ってるから。

未優
そっか、まあそれはいいけど。とにかく、サンタを捕まえるってどういうこと？

そんなの、無理じゃん。

結衣
絶対できるって、ほら、去年写真も動画も撮ってるんだから。本当は去年捕まえるつもりだったんだけど。

未優
そうなの？ じゃ、一回失敗してるんだ。

結衣
そういうこと。思ってたのと少し違ったから、計画が破綻したんだよね。

未優
どうということ。

結衣
サンタといえば、トナカイじゃん。去年はトナカイを足止めさせといてサンタを

捕まえようと思っただけだ、トナカイ、いなかった。

未優 そうなの？　じゃ、何で来るの？　サンタといえば、トナカイで空を飛ぶ、でしょ。

結衣 私もそう思ってた。しかも、うちの前の空き地、あそこならちようどトナカイとかそりとか止められるし。(空白) 逆になんだと思う？　案外、現実的なものだよ。

未優 車、とか？

結衣 正解。真っ赤なアウディだったの。びっくりでしょ？　意外とお金持ちなのかもね、サンタって。

未優 (笑う) え、超かっこいい。ただでさえ世界中の人にプレゼント渡してるのにね。

結衣 それな。アウディパンクさせるのはちよつと躊躇っちゃって。次にも響いたら大変だし。ほら、私ももう他の人のこと考えられるくらい大人だから。

未優 サンタ捕まえる、とか言ってる人が何を言ってるの。

結衣 (笑う) 私は本気だよ。本当に、今年は絶対にサンタを捕まえるの。

未優 そらやあまた、なんで。

結衣 秘密。成功したら、教えるよ。

未優 私にこの話をしてるってことは、要するに私に手伝って欲しいってことね。

結衣 正解。さすが未優、九年一緒にいるだけある。

未優 ……いいよ。私も、サンタ、見てみたいし。本物は見たことないから。

結衣 え、見たことないの？　幼稚園の時来た、とか言ってたじゃん。

未優 あー、あれ。こないだ優奈のお母さんが教えてくれたんだけど、あれ、優奈の通ってた英会話スクールの先生だったらしいよ。

結衣 あー、あるある。うちの中学で本物見たの、私くらいじゃない？

未優 普通の人は本物のサンタなんて見たことないから。

結衣 じゃあ、普通じゃない方に、一緒になろうよ、今年のクリスマス。

未優 何その誘い文句。まあ、やるけど。

結衣 じゃあ、私の計画、聞いて。

未優 うん。

結衣 まずは、サンタ捕獲キット。

未優 なに、結衣そんな物騒なもの持ってるの？　てか、売ってるの？

結衣 そう。去年のクリスマス、サンタにこれ頼んだ。宣戦布告、って感じ？

未優 ……え？

結衣 なんだそれ、って思うでしょ？　でも私は、正々堂々と戦いたい。

未優 サンタ、銃とか持ち込んでこない？　それ。

結衣 サンタがそんなことするわけないじゃん。

未優 サンタだって、そんなもの頼まれたら命の危機感じるでしょ。対策してくるよきつと。

結衣 私は負けないよ。

未優 やけに強気。

結衣 もちろん。私の計画、完璧だから。

思考はシンプルに。今年はツリーの横に潜むの。で、来た瞬間に足を掴む！

未優 え、そんなもん？ 拍子抜けした。完璧な計画って言ったじゃん。

結衣 未優、サンタの姿、想像してみて。サンタってふくよかだよ。絶対運動神経よくないと思うんだよね。私、こないだ柔道の動画見たし。ほら、中学でもちよっとだけやったじゃん、二年のときに。ああいう感じでサンタを足止めして、話を聞く。わたしが頑張って英語で話すから、その間未優はサンタの腕を後ろで持ってる。

未優 え、わかった。わかんないけど。でもほんとにそんなので捕まえられるの？

結衣 だって、未優去年家に入ってきた泥棒捕まえてたじゃん、それと同じだよ。所詮

サンタも不法侵入だし。

未優 たしかに。

結衣 じゃあ、二十四日の夜、私の家の前に、二十三時に集合。去年サンタは一時ごろに来てたから、それで間に合うはず。近所の子供もそこまで減ってないと思うし。

未優 ……なんでそんなにサンタ捕まえたいの？

結衣 だから、秘密。成功したらわかるから。

未優 ー、そっか。

結衣 とりあえず、明日学校にサンタ捕獲キット持ってくから。カメラとか、一応トナカイ用の罫とか、設置するの手伝って欲しいし。あ、でも周りにばれないようにしなきゃ。ギリギリ銃刀法違反かもだから。

未優 なに、それそんな物騒な感じなの？ 怖くなってきた。

結衣 未優らしくないね。

未優 そりゃあ、サンタ捕まえるなんて言われたらね。

結衣 (笑う) じゃあ、また明日、学校でね。計画、完璧にしよう。

未優 完璧じゃないのわかってるんだ。

結衣 (笑う) バイバイ、また明日ね。

山崎 智生

【登場人物】

よどがわのりお
淀川 憲雄

なががわ きよし
中川 清

あずみ ひたち
安曇 日立

【とき】

秋の某日 午後四時ごろ

【ところ】

路線バスの後方の座席にて

淀川 さつき、コンビニでこのワッフルを買ったんだけど、清、ドーナツ買ってたよね？

中川 そうだけど。これ前にも食べて美味しかったからさ。

淀川 誰と食べたの？

中川 誰と、ってお母さんだよ。

淀川 とか言っちゃって彼女なんじゃないの？ 穴をかわるがわる覗いて、「僕たちの未来が見えるようだ」とか言っちゃって。

中川 ないない、それに、このドーナツ、穴が空いていないタイプのやつだから。

淀川 ああ、そう…（予想通りの答えが得られず、落胆）。それで、このワッフルの分け目を利用して四角形を幾つ作ることができるか、って考えたことない？

安曇 あなた本当に文系ですか？

淀川 まあ、今回の模試の結果を見るとね、確かにグラフは理系の人の形をしてるよ。でも、ほら、古文が好きだから。

中川 古文ね…。それで、さっきのワッフルのやつ？ あれって九つじゃないの？
3C₂×3C₂じゃない？ 縦、横それぞれ三本の中から二本選べばいいんだから。

安曇 （呼びかけて）清、またこの人話を反らそうとしてる。

中川 危ない…。憲雄さん、あなたいつインスタ入れるの？

淀川 ほら、ああいうのって設定が面倒なんですよ。だから、しっかり説明を読んでからやりたいから、年明けまでには…。ね…。

安曇 そういってこの人また入れない気にいるから。どうせ、夏休みにも同じことを言ってたんでしょ？

中川 早く入れようって。おもしろいよ。あの人も最近始めたんだからさ。
淀川 結局、またいつものその話ね。
安曇 そうに決まっているでしょう。
中川 それであなた、いつ告白するの？
淀川 それは…。ほら、今月蠍座運勢あんまりよくないからさ。来月以降、だよ、うん、多分。
安曇 清、調べて（ト言うと、中山、本当に調べる）
中川 おお！ あなた、来月恋愛運星五だって。
安曇 憲雄、来たね。ついに。
淀川 でもその占い当たらないから。あんまり当てにしていんだよね。
中川 じゃ、それ、背理法で証明してください。
安曇 なに言ってるんだ、こいつは…。
中川 $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ を必ず使ってください。
淀川 えーっと、ここで愛の長さを r 、相手への距離感を 1 とすると、その間の角が…。
安曇 この人こうやって言っておいて、話また反らそうとしてる。
淀川 憲雄さん、よくないですよ。
中川 証明しろ、とかいったのどこの、どいつだよ。
安曇 それで？ ほら、早く。
淀川 （困惑して）まあ、まあ、まあ、ねえ。
安曇 あ、この人、耳、赤くなってます。
中川 （自信満々に）私、知ってます。この人、やましいことがあると、耳が赤くなります。
安曇 じゃあ、そういうこと？
淀川 ないない。
中川 じゃあ、何があったわけ。そんなに耳を赤くする必要もないじゃん。
淀川 そういう体質だから仕方ないんです。
中川 それで、いつ告白するの？
淀川 潮時が来たら…？
安曇 潮時、ってなんだよ。
淀川 然るべきときに対応します。
中川 然るべきとき、ってなんだよ。
淀川 ほら、まだ潮が来てないだけで…。最近、引いちゃった？でも、いつかきつと大波になって戻ってくるから、その時に…。
中川 それで、戻ってこなかったらどうするの？
淀川 それは、その…。ほら、地球って丸いじゃない。だから、引いた波も地球を一周して、巡り巡ってまた戻ってくるんだよ。
安曇 でも、また同じ潮が戻ってくるとは限らないじゃん。

中川 背理法で証明しようか。ここで…。

安曇 背理法はしなくていいよ。

淀川 だったら対偶法で。

安曇 お前はさっさと答えろ。

中川 それじゃあ、質問を変えましょう。どのくらい好きなんですか？

淀川 それはまあ…。四千ジュールくらい？

中川 じゃあ、ここで水の比熱を 4.2[J/kg/K] 、あの人の体の中の水分、ここではわかりやすく 30kg としよ…。 $4.2\text{[J/kg/K]} \times 30\text{[kg]} \times \Delta T = 4000\text{[J]}$ で、すなわち、温度変化は 31.7C 。リアルな愛の温度だなあ…。

淀川 ああ！ もうこれまでだ。これまででいいだろう。世の中の政治家だって、「知らない」「時期を見て判断する」とか行って逃げているんだから！

安曇 あなたはその政治家と一緒にされてもいいんですか？

淀川 嫌だけど。

安曇 じゃあ、話しましょう。

中川 もう秋。そろそろ年も明ける。アグレッシブにいこう。チャンスは自分で…

淀川 掴むもの。

安曇 わかっているじゃないか。だったら、今しかないんだよ。今なんだよ、今。潮時。

中川 またそれだ。

淀川 いつか大嵐が来て、堤防を乗り越えるくらいの波が押し寄せられるかもしれないじゃないか。そうしたら、潮はゴマンとこっちの方へ…。

中川 あなたね、ほんと、すごいね。

安曇 何が？ 逃げてるだけじゃん。

中川 逃げるのが上手。

安曇 それは、そう。

淀川 潮が再び来ないといってたよね。

中・安 そうだけど。

淀川 海流っていうのはさ、結局蒸発するんだよ。蒸発。そもそもって雲になるんだ。その雲にだって、潮のいくらかは含まれているだろう。雨が降る。そうすれば、その潮はまた戻ってくるんだよ。

安曇 すごい言い訳をありがとう。

中川 でも、雨になって降るとは限らないよね。ということ、この命題は偽です。

安曇 憲雄、今だって。今がインスタいれるチャンスなんだよ。

中川 あなた、黒板でオセロやったときに負けたよね？ 負けたら、七夕行くんじゃないかなったの？

淀川 あれは、 8×8 のマスじゃなかったじゃない。 8×7 。あんなの平等じゃないから無効。

安曇 チェスもやったんじゃないの？

中川 聞いて、この人、チェス本当に下手くそ。
淀川 それは認めるけど。
中川 七夕行けばよかったのに。
淀川 わざわざあんな人が多いところにいってもね…。静かに彦星と織姫を見守った方が、風情があるよ。
中川 見守ったの？
淀川 そんなことはしていない。
安曇 やっぱりウソじゃん。オレ、ここで降りるから、清、あとは頼んだ（ト安曇は席を立ててそのまま退場）

中川 で？
淀川 ん？
中川 スマホ。
淀川 はい、なんて貸すわけがないでしょう！
中川 LINEしようって。
淀川 いきなり変な人から「おつかれ」とか来たら、びっくりしちゃうでしょう。
中川 でも、練習したじゃん。あなたが、「今日遅れます」ってよこしたから、「了解かいかいかいかい」って送ったでしょ？ そしたらあなた、なんて返した？
淀川 貝ならホタテが好きです。
中川 あなたねえ、この会話のほうが難しいんだよ。
淀川 LINEを会話とっていいのでしょうか。
中川 もっと話さなくちゃ。で、大切なことは何？
淀川 文末に「。」はつけないこと。スタンプで全てを片付けないこと。スタンプ、リアクションは会話を終了させたい時のサイン。相手のノリに合わせることに。
中川 わかってるじゃん。じゃあ、スマホ。
淀川 じゃあ、パスワードわかったらいいよ。
中川 （電卓の画面を見せて、適当に数を入力する。）ここにあなたのケータイのパスワードを入力してください。
淀川 えー？ こんなのでわかるの？ メモライズ機能とか使ってるんじゃないの？
中川 そんなもの知らない。できた？ あなたのパスワードは（ト憲雄のスマホにパスワードを入力すると、画面が開く）…。
淀川 ソーシャルエンジニアリング！

中川 LINEの画面を開こうとする中川。必死に止めようとする淀川。なんとか淀川が取り返す。

中川 じゃあ、また明日見せてね。
淀川 パスワード変えようかな…？

中川 変えてもまたすぐバレるよ。
淀川 もういい、触らせない。
中川 なるほどね。とりあえず、インスタ入れといてね。
淀川 冬までにはね。
中川 逃げないでよ。
淀川 潮時が来るまではわからない。
中川 そうしたら、日立にパスワード教えるからね。
淀川 そんなことは絶対しないように。
中川 それじゃあ、インスタ。
淀川 わかったよ。

(幕)

大岡 淳

冬への約束・I

君が 感傷というものを楽しみたいなら
地上のありとあらゆる遺伝子を集めて
五色に飾られた舟に乗せ
河に流してあげましょう

君が 法というものを信じたくないなら
傷つけあうことだけが歴史だと割り切って
聖者に値する人物を
籤で選んであげましょう

君が ペテンというものを知りたいなら
一つしかない物語をマッチで燃やして
大理石に影を落とす
タンゴを踊ってあげましょう

君が 秘密というものを持ちたいなら
姉が流した貴い^{お宝}涙の水脈を辿って
繰り返される人生を
真珠に封じてあげましょう

君が 約束というものを果たしたいなら
慣れ親しんだ数え唄を^{おさな}幼児に譲って
静まり返る塔の上から

「雪はまだか」と囁きましょう

「ユーイ きみは どこへいこうってゆうの」

「ぼくは とおいまちへにげるんだ マータ そこにはきつと おんせんがあるよ」

「おんせんは あたたかいだろうね」

「そりゃあそうさ きみも あそびにきたらいいよ とおいまちに」

「とおいまちは とおいだろうね」

「そりゃあそうさ だって にげるんだから」

「にげるって なにからにげるの」

「なんだろうね たぶん くるくっておおきいものだよ」

「くるくくっておおきいものは わるいの」

「わるいさもちろん というのもね そいつは じぶんがいきるために わるいことをし

ないわけにはいかないからさ」

「へえ じゃあ きのどくだね」

「どうして」

「だって したくてしているわけじゃないんだろ わるいことを」

「だれだって わるいことなんか したくてするものじゃないだろ」

「そうかな わるいことをしたくて わるいことをするやつもいるんじゃないかな」

「そんなやつが いたらどうする」

「こわいよ きみをおいかけてくる くるくくっておおきいものより もっとこわい」

「こわいやつにあったら にげるかい」

「にげるよ ぼくは よわむしだから」

「たたかわわないのかい」

「たたかわないよ」

「じゃあ ぼくが こわいやつにおそわれていても？」

「そのときは そのときは わからないけど でも たたかっても かてないよ」

「いつか かてるようになる おまじないをかけてあげるよ」

「そんな おまじないがあるの？」

「めをとじてごらん」

イチドファイタカゼハモドラナイ

イチドオキタナミハモドラナイ

イチドイキタヒトハモドラナイ

はい おしまい」

「これが おまじないなの」

「これが おまじないだよ どうだい」

「よくわからない けれど ぼくは このことを わすれないとおもう」

「ぼくも このことを わすれない」

「また あえる ユーイ？」

「きつと あえるよ マータ」